

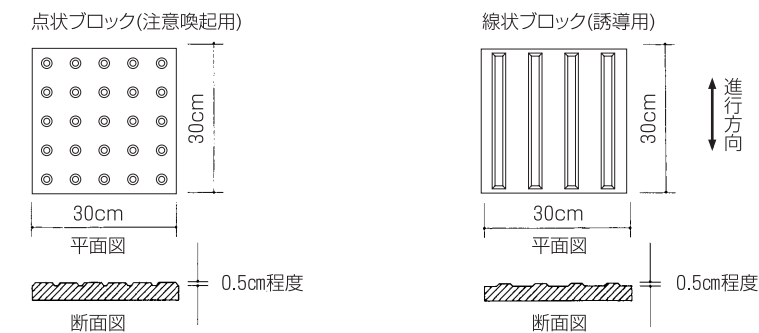
視覚障害者誘導用ブロック

■基本的な考え方■

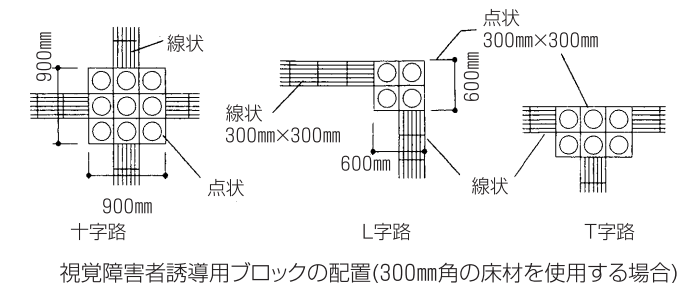
視覚障害者が安全かつ確実に到達できるように連続して誘導標示を行う。

配慮事項		
項 目	解 説	
形状・色彩・明度	○視覚障害者誘導用ブロックには、周囲の床面との色の明度の差又は輝度比が大きいこと等により周囲の床面と識別しやすいブロック等で表面に線状の突起がある「線状ブロック(誘導用のブロック)」と表面に点状の突起がある「点状ブロック(注意喚起用のブロック)」を用いる。⇒図1参照 ○ブロックの形状については、JIS規格を参考とする。 ○線状ブロックと点状ブロックは触知による識別が容易なものであること。 ○弱視者に配慮し、視覚障害者誘導用ブロックの色は、黄色・橙色を原則とするが、他の色を使用する場合は、周辺の床面の色との明度や輝度の対比等を考慮する。	
敷設幅	○30cm以上とする。	
敷設方法	○誘導の方向と線状突起の方向を平行にして、連続して敷設する。 ○視覚障害者誘導用ブロックは、できるだけ曲がり角や分岐点を少なくし、単純に連続して敷設する。 ○水平通路の誘導は、線状ブロックを連続して敷設し、迷いやすい曲がり角や分岐点では点状ブロックを敷設して注意表示とする。 ○段差位置の注意表示として、点状ブロックを敷設する。	
線状ブロックの単位空間別敷設方法	○通路に敷設する場合は、通常歩行する箇所に敷設する。	
点状ブロックの単位空間別敷設方法	○建物の出入口幅と同等幅程度に敷設する。 ○自動式引き戸でマットを使用する場合は、マット直前に敷設する。⇒図2参照 ○開き戸の場合は、開いた先端に敷設する。⇒図2参照 ○階段の起点及び終点(踊場を含む)から30cm程度あけて敷設する。⇒図3参照 ○エレベーター出入口前は、押しボタン側に寄った位置に敷設する。⇒図4参照 ○居室の出入口に敷設する場合は、廊下側に敷設する。⇒図5参照	

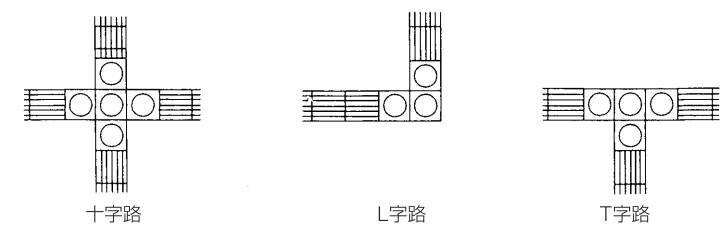
視覚障害者誘導用ブロックの形状の例 (図1)



視覚障害者誘導用ブロックの配置

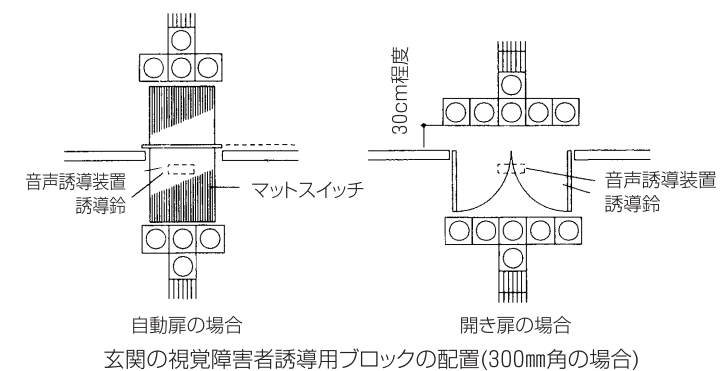


視覚障害者誘導用ブロックの配置(300mm角の床材を使用する場合)



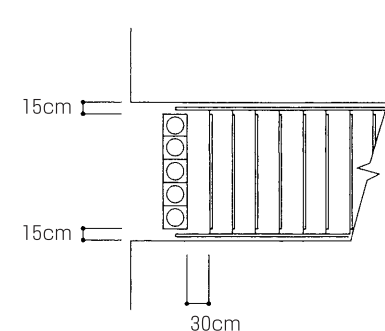
視覚障害者誘導用ブロックの配置(400mm角以上の床材を使用する場合)

出入口付近での設置例 (図2)

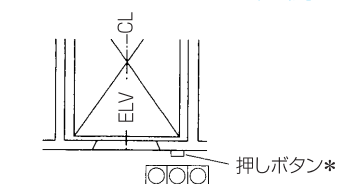


玄関の視覚障害者誘導用ブロックの配置(300mm角の場合)

階段前後での設置例 (図3)



エレベーター出入口での設置例 (図4)



エレベーター出入口の配置
*点状ブロックは押しボタン側に設置する

居室の出入口に設置する例 (図5)

